地域の情報をお届け!

呉トピックス

スモモ開花状況調査

くれ選果場は3月27日、管内の呉市蒲刈町向地区で主に生産する「蒲刈スモモ」の開花状況を調査しました。

園地の向きや標高差により若干のバラツキはあるものの、サマーエンジェル・サマービュートは満開期、主力のサンタローザは7分咲、大石早生は3分咲で、春冷え等天候の影響により昨年よりも5~7日遅いという結果となりました。

蒲刈スモモ生産組合の石井芳清組合長(69)は「今年も純白の花をたくさん咲かせる事ができて一安心している。収穫までの間、いろいろと気の抜けない作業が続くが消費者に少しでも多く供給し、食べていただけるよう最大限の努力を尽くす」と意気込みます。

蒲刈スモモは6月中旬から7月下旬まで、品種リレーしながら広島中央卸売市場をメインに出荷する計画となっています。

▲花の状況を見て回る石井組合長

フレッシュな香りとジューシーな食味 越冬紅八朔

くれ選果場で3月18日、管内の呉市下蒲刈町と蒲刈町の約20戸が取り組む「越冬紅八朔」の出荷が始まり、この日は約2トンを出荷しました。

▲一果ずつ丁寧に選果する作業員

「越冬紅八朔」は厳寒期を超えた3月中旬まで樹上にならせ収穫、出荷します。糖度が上昇するとともに外観の紅も濃くなり、収穫したてのフレッシュな香りとジューシーな食味が味わえることで差別化を図っています。

今年度産は例年に比べ、やや小玉傾向であるものの、秋以降の好天に恵まれ高糖度に仕上がりました。

今田隆司事務所長は「越冬紅八朔は当産地の看板商品の一つ。長年愛されており、この時期になると問い合わせも多い。ギリギリまで熟度を上げた産地自慢の味を多くの消費者に味わっていただきたい」とPRしました。

未収益期間短縮へ 大苗植え付け作業

▲丁寧に苗を植え付ける部会員

呉地域管内の石地温州研究部会とくれ選果場の江能支部生産販売委員会は3月中旬、それぞれ倉橋アグリセンターと江田島アグリセンターで柑橘の苗を仕立てました。

植え付けたのは、いしじといしじの主幹形、レモン、はるみなどの苗、約1,200本。部会員や委員、JA広島果実連技師、JA職員ら約40人が作業にあたりました。

この取り組みは、1年生の苗を集中的に育苗することで未収益期間を短縮。生産者の早期所得獲得と向上を目的に、倉橋地区では2001年、江能地区では2003年から続いています。

石地温州研究部会の落海政博部会長は「充実した苗を提供できるよう丁寧に作業し、産地維持と所得向上につなげたい」と話しました。

お宝とまと出荷順調 天候不良も品質良好

4月上旬、呉市倉橋地区で倉橋町施設野菜生産組合が生産するブランド「お宝とまと」の出荷が順調に続いています。7戸1法人が3・5aで栽培・管理するトマトは5月にピークを迎え、7月上旬まで413トンの出荷を計画します。

今年度産は、天候の影響で日照時間が少ないため、例年以上に病害虫の防除を徹底。中でも重要な摘葉作業は1株ごとに葉の数を管理して不必要な葉をハサミで取り除き、病気の予防だけでなく、下部の日照確保や栄養分の浪費を防ぎます。

▲丁寧に摘葉する立花組合長

同組合の立花隼人組合長(42)は「天候が悪いなか、品質の良いトマトが出来ている。今後もピーク時の需要に応えられるよう、組合全体で工夫しながら取り組んでいきたい」と話しました。

なるほど え〜のう! 営農情報

落葉果樹

いちじく

●芽かき

新芽が伸長してくると繁茂状態となり、品質が低下するので、受光量確保と結果枝(実のついている枝)の勢いを揃えることと、品質向上を図るために、結果枝の本数を整理します。

樹勢の弱い樹ほど、早めに実施し、樹勢の強い樹では遅めに、2〜3回に分けて実施します。

残す芽の数

1㎡あたり適度な間隔で5〜6本配置します。

なお、背面枝(枝の背から発生している芽)や、下垂枝、重なり枝、徒長枝(真上に向け伸びた勢いの強い枝)は積極的に芽かきを行なってください。ただし周囲の枝が少なく、太枝などが日焼けを起こす可能性がある場合は、誘引や捻枝(枝をねじる)を行ない、芽数を確保します。

●かん水

発芽期は7日おきに15〜20㎜を目安にしっかり行ないます。

●カミキリムシ対策

5月の下旬頃はカミキリムシの発生が考えられます。

対策として「ガットサイドS」の原液又は1・5倍に薄めて主幹部に塗布又は散布してください。

また、カミキリムシの食入穴(木くずの様なものが穴から出ていたら要注意)を見つけたら「園芸用キンチョールE」を注入します。

カキ

●摘蕾

大きな果実を生産するには細胞分裂時期に貯蔵養分を蓄に蓄え、果実内の細胞数を多くすることが大切ですので、摘蕾は重要な作業となります。

摘蕾は開花の5〜15日前が適期となります。

残す蕾

①結果枝(実がなる枝)の中央付近
②ヘタが大きく四方の形がそろっているもの
③横向き・下向き
④肥大したときに周囲の枝に接触しない部位

カキは一斉に開花せず順次開花するため、一度摘蕾を終えた樹でも遅れて開花した花や、見落としがないか再度確認しましょう。

モモ

●摘果

満開40日後(5月中旬)頃から開始します。可能な限り満開50日後頃(硬核期)までには終了するように行ないます。

摘果は生理落果の起りにくい品種から優先して行ないます。

硬核期に強い摘果を行なうと生理落果や果実肥大による核割れ(低糖な果実)を助長するので注意しましょう。

スモモ

●摘果

満開後50〜60日(5月中旬〜下旬)頃から仕上げ摘果を行ないます。

早生種や樹勢の弱い樹は早めに行ない、サンタローザなど生理落果の多い品種は着果が確認できてから行ないましょう。

葉果比は1果あたり20枚ほどが目安です。

MEMO

落葉果樹は、開花期を迎えるものや、幼果の肥大が始まるなど様々な品目があります。

この時期は前年に貯蔵した養分による成長から、今春に発生した葉で光合成した養分による成長へ転換していきます。

短期間で、一気に変化していきますので、遅れないよう生育に合わせた作業を行ないましょう。

家庭菜園

5月は気温も徐々に上がり、夏野菜の苗の植え付けがピークとなる時期です。

植え付けのできる野菜の種類も多いですが、野菜が病害虫にかかると収穫した野菜の品質に大きく影響を及ぼし、他の病気を誘発し最悪の場合、野菜が枯れてしまうこともあります。

5月頃に頻出する病害虫に気を付けながら収穫に向けて植え付け作業を進めていきましょう。

植え付けに適する主な野菜

キュウリ・トマト・ズッキーニ・ピーマン・枝豆・ナス・トウモロコシ・オクラなど

●植え付けのコツ

・本葉が4〜5枚で茎が太く葉の緑が濃く、病害虫の被害のない育ちの良い苗を選びましょう。
・作物ごとの生育適温に気を付けましょう。この時期に植え付けを行なう夏野菜の生育適温はおよそ20℃〜30℃ですが、野菜ごとに細かく違うので気を付けましょう。
・夏野菜は地温や湿度に影響を受けやすいためポットの土が地表にでるように浅植えしましょう。
・浅植えにすると苗が倒れやすくなり、風で傷む可能性があるため、支柱を使って苗を固定しましょう。

●植え付け時期の注意点

梅雨入り前に植え付けを終わらせましょう。

植え付け後すぐに梅雨入りすると、多湿により病気の原因となる細菌やカビの増殖、根が窒息状態になることで起きる酸素欠乏症により生育不良に陥る可能性があります。

梅雨の対策として代表的なもの

①マルチ栽培で土の流出や泥はねを防ぐ。
②畝を高くすることで水はけを良くする。
③排水をコントロールするなどがあります。

●べと病に注意

べと病はアブラナ科、ウリ科、ネギ類の野菜に多く見られる病気で、気温がやや低温(20〜24℃)かつ多湿で発生するカビが原因の病気です。また肥料切れや生育初期に果実を付けた為、株の勢いが衰えた場合にも発病が多くなります。

発病すると葉に淡黄色で境界のはっきりしない小さな斑点が生じ、晴天により乾燥するとガサガサになりますが、雨天が続くと湿気を帯びてベトベトになり、最悪の場合、葉が枯れてしまいます。

主な対策

・カビが原因の為、密植を避け風通しを良く、排水を良くし過湿を避けるなどカビが発生しないようにしましょう。
・雨や水やりで泥が跳ねて葉に付くと病気の原因になるため、マルチやワラを敷くなどして防ぎましょう。
・肥料を十分に施し、肥料切れに気を付けましょう。
・べと病の菌は葉の気孔(植物が呼吸をするための穴)から侵入して発病を起こすため、薬剤などで対策する場合は葉の表と裏にムラなく散布しましょう。

●うどんこ病

キュウリ、ナス、トマト、ピーマン、オクラなど多くの野菜で発生する可能性がある病気。比較的高温でやや乾燥を好む菌が原因で、葉の表面にうどん粉のような白い粉が生じます。

下部の葉から徐々に上部の葉に病状が進み、ひどくなると葉が枯れて収穫にも大きな影響を与えます。

主な対策

・乾燥したときに被害が大きくなるので注意しましょう。
・発病して落葉した葉は伝染源になるので処分しましょう。
・薬剤を用いて防除する場合、病気が進行すると困難になるため初期に行ないましょう。

●アブラムシ

アブラムシは様々な野菜で発生し被害を生じさせるカメムシ目アブラムシ科の害虫です。

主な被害として、直接の吸汁害と排泄物へのすす病の発生による茎葉、果実の汚れ、ウイルス病の媒介があります。一般的には降雨が少なく乾燥した条件で発生が多く、寄生密度が低いときは吸汁害が出ることはほとんどありませんが、密度が高まると排泄物の量が増え、これにすす病が発生し、茎葉や果実が汚れます。すす病が多発すると光合成が抑制され、生育が悪くなるばかりでなく品質低下にも繋がります。

主な対策

・アブラムシは反射光を嫌うのでシルバーマルチを敷く、シルバーテープを畝上に張りましょう。
・防虫ネット等を用いたトンネル栽培で排除しましょう。
・薬剤を用いて防除する場合は、特に葉裏など注意してムラの無いよう散布しましょう。

ときめき女性部通信

春を感じて　お花見会

４月１日、ＪＡひろしま呉地区本部下島支部は呉市下蒲刈町の大津泊庭園で、２日に鹿川支部が江田島市能美町の中央運動公園で毎年恒例のお花見会を開きました。

桜が咲き始めた公園で歌を歌ったり、体操やビンゴ、グラウンドゴルフなどゲームを楽しみ、お弁当を食べて部員のみなさんが笑顔で楽しみました。

下島支部

▲桜の木の下で歌を歌ったり軽体操をして楽しく過ごしました。

鹿川支部

▲ビンゴゲームやグラウンドゴルフを楽しみました。

定年退職　おめでとうございます

３月29日、東広島芸術文化ホールくららに於いて令和５年度定年退職辞令交付式が執り行なわれました。呉地域で定年退職された方々は以下のとおりです。（敬称略）

信用共済部	部長	瀬古　真理
倉橋アグリセンター	センター長	竹内　幸造
蒲刈支店	副支店長	院去　和成
統括部総務課	課長代理	宮内　直子
信用共済部	共済課	中道　美幸